

北海道伊達市・壮瞥町・洞爺湖町・豊浦町 「洞爺湖周辺地域における観光産業のあり方を探る」

- 洞爺湖周辺地域の宿泊業は、地域中核産業（付加価値額・従業者数構成比が大きい産業）であるとともに、全道と比較した同地域への産業集積度が高く、各自治体が共通して推進する観光分野の主要産業。
- 一方、同地域の宿泊業においては、観光客の滞在時間の短さ、企業の設備投資の遅れが課題として顕在化。
- 同地域の観光産業が発展していくための今後の取組について、地域の産学官金関係者による意見交換を実施。

実施概要

日 時：平成30年1月29日（月）

会 場：洞爺湖万世閣ホテルレイクサイドテラス

参加者：63名

（自治体首長・職員、地域企業、商工会議所・
商工会、大学、金融機関等）

有識者：公益財団法人日本交通公社
観光政策研究部 次長 山田雄一 氏

使用したRESASのデータ：
全産業の構造、流動人口メッシュ 等

その他利用したデータ：
北海道観光入込客数調査報告書
金融機関保有財務データ 等

現状分析

- 近年、宿泊客は外国人観光客を中心に増加するも、滞在日数が短く日帰客も多いという課題あり（図1）。
- 企業は観光客増加を受けて売上が伸張しているが、固定資産の比率低下が見られ、設備投資拡大に向かっていないことが窺える（図2）。
また、企業ヒアリングから観光産業における人手・人材不足が課題として確認された。

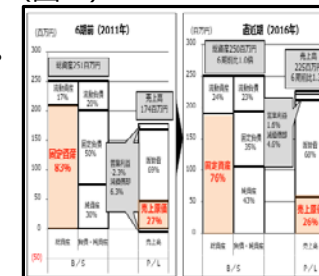
（図1）



宿泊日数推移と日帰客と宿泊客の構成を分析。

- ① '15年度平均宿泊数 1.06泊（11年度比▲0.01泊）
- ② '15年度宿泊・日帰客 宿泊1,269.5千人 <日帰6,318.3千人

（図2）



企業の財務データ平均値を用いて、6期前と直近期を比較分析。

- ① 売上 174百万円 →225百万円に伸張
- ② 固定資産の比率 83%→76%に低下

意見交換での主な意見

- 同地域は、1市3町で捉えると他地域に引けをとらない観光地。自治体、商工会議所・商工会、金融機関が三位一体となって、同地域の広域連携や周遊方策等を検討していくことが必要。
- 誘客・滞在時間の拡大に向けて、観光地のブランディングが重要。その実現には体験型観光が不可欠なため、地域の潜在的な観光資源の掘り起こしと活用が必要。
- 観光産業における人手・人材確保に向けて、企業の合理化投資促進や入湯税などの新財源活用の検討を通じ、企業や地域の魅力を向上させる取組が必要。



会場全体



有識者の講演